

7 「グラウンドワーク西神楽」【旭川市】

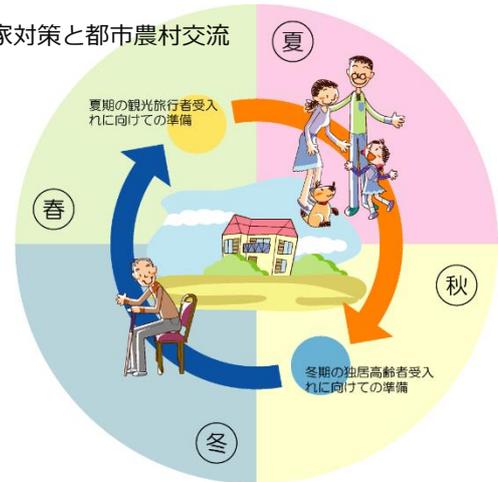


地域高齢者の冬期集住

農業後継者の問題、耕作放棄地の問題などを懸念する地元の農業青年を中心に、「西神楽地域づくり研究会」を発足。いくつかの部会が協力しながら、「自然との共生・共働」をモットーに活動しています。



空き家対策と都市農村交流



「やりたいこと」が見つからなくても
「困っていること」はあるはず！



都市部住民の二地域居住

理事 谷川 良一さん



Q：地域のニーズを掴むには？

A：地域の人が自分で「何がやりたい」っていうことはなくても、「何に困っている」っていうことはあると思うんですよね。「〇〇さんは、今これに困ってる」、そんなのを集めてもいいんですよ。そういうことから一つひとつ行動していくと、色んな答えが返ってきますから。そしてある程度、そういうのが集約されてきたら、自分たちの地域作り計画みたいなものをラフでいいから作る。目標を立てないとなかなか持続しないんですよ。そして、その目標を立てるときに、実は行政の人に知恵を借りるっていうのが大事なんです。

Q：「冬季集住事業」について教えてください。

A：死ぬまで地域に元気で住み続けるにはどうしたらいいかって考えた時に、「冬季集住」ができたんですよ。夏はいいよ、古い家でも。でも、冬は屋根の雪下ろしとかから解放してあげたい。おばあちゃんの一番の弱点は足。通院とか、買い物とかね。おじいちゃんの弱点は食事。それを両方クリアするためには「冬季集住」がいいんじゃないかと。集住施設だと、除雪業者も黙っていても入ってくれるから。昔は「互助の精神」ってあったんだけどね。昔あった「お互い様の精神」が復活できるかもしれないね。

Q：活動を進める中で起きた想定外のことは？

A：一人暮らしのお年寄りが安心して生活できるように始めた「冬季集住」なんだけど、遠くに住んでる息子や娘が評価してくれた。安心できるって。あと、数年やっていくと、息子夫婦や娘夫婦と一緒に住んでいるお年寄りも集住したいって。今、そのニーズが半分以上。これは想定外だった。

Q：これから何か始めたいと思っている人へメッセージをお願いします。

A：地域に理解者はいないとか、金がないとかよく言うけど、ないものねだり。そうじゃなくて、あるものを探せばいい。いるんです、必ずいるんです、その地域に。いないはずがない。数人でもいいからチームを作って、地域の水戸黄門を探して、行政の協力者を探すといいですね。

インタビューを終えて（生涯学習課：吉光寺 勝己）

「どこのまちでも、必ず人材はいる。3人いれば、誰でも実現できる。無理だと思って諦めず、まず活動することだ。」と熱く語る谷川氏の言葉が印象的でした。つい「ないものねだり」をしがちですが、特にまちづくりにおいては、「あるもの探し」の視点が重要なのだらうと思います。

詳しくはこちら

